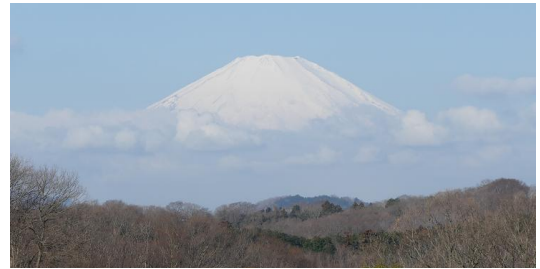
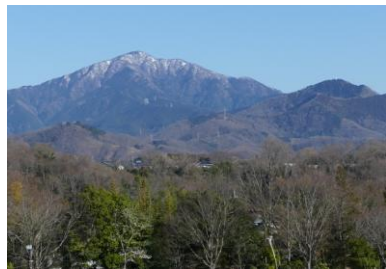


＜山には＞ “立春” を過ぎて “春分” になろうかという時期に大山と丹沢の山頂付近が雪で白くなり(右写真 3/15 撮影)、富士の冠雪も少し回復しました。



一方、私たちの周りではまさに “雨水” そして雑木林では木々が新芽を膨らませだし “コブシ” もほぼ満開です。ところでよく知られた「白樺、青空……」で始まる歌にもあるように、コブシの花には遠目でも近目でも青空が似合います。ただ遠目に真っ白な花は近くで見ると赤紫色の化粧をしていて、同じ時期に咲く “ハクモクレン” の白一色の大きな花より繊細な感じがしますね。



＜コブシ＞

＜ハクモクレン＞

＜順番は？＞コブシの花は例年通り、カワツザクラ、カンヒザクラは 2 週間ほど早く咲きだし盛りを過ぎました。風の遮られる場所に生える “クサイチゴ” も早々と花を咲かせています。



＜クサイチゴ＞

＜マンサク＞

ところが去年はウメより早かった “マンサク” が 40 日ほど遅れてようやく満開です。遅い雪と遅い開花がマッチして、「金縷梅 (まんさく) や丹沢の嶺雪残る (阿部悦子)」。それにしても、概して花の咲き出す時期が早いこの春に “まんざく (語源のひとつ)” はずの “マンサク” は一体どうしたのでしょうか？

＜小さな＞春先の雑木林に分け入る楽しみの一つが “シュンラン” や “エビネ” の花とその育ち具合を見ることです。 “小さな” 喜びですがこの春は “シュンラン” が 3 倍増! さてあとひと月ほどで咲き出す



“エビネ”

＜シュンラン＞

＜ナガバチデレゴケ＞



はどうでしょうか。 “小さな小さな” といえば大きな石の上で花を咲かせる “ナガバチデレゴケ” は急峻な岩山の樹木を想わせます。フキノトウの他はまだ春の感が乏しいビオトープの流れにある山水画の景色です。最後の左写真は名残のカワツザクラの蜜を器用に吸うヒヨドリです。

(文と写真：松本正勝)